

米中貿易戦争は24日、米国が中国の木材に対して10%の制裁関税を発動する一方、中国も米国の木材に対して5%または10%の報復関税を発動したことで、すべての木材が追加関税の対象となった。ただ、8月23日に25%の関税が発動されたサザンパインの丸太(15センチ以上)を除き、中国が課した関税の多くは、当初発表時の20%または25%が10%に引き下げられた。年内の解決を見据えた対応と見られるが、米国側は2019年から25%に引き上げる方針を示しており、成り行きは流動的だ。

米中貿易戦争、木材に波及

北米市況の乱高下で影響読めず

17年の中国の米国からの木材輸入量は丸太が609万6000立方尺(前年比15・1%増)、製材品が320万5000立方尺(同9・8%増)。丸太、製材ともサザンパインが3分の1程度を占めると見られ、丸太に課された25%の関税の影響は大きい。製材品は10%(当初発表は20%)だが、読み切れないのは北米製材市況との関係だ。

米国内需の拡大と過去最高値を更新した製材市況の高騰は本来、輸出にはマイナスに働くと考えられる。だが、米国の中国向け輸出は昨年の針葉樹丸太

が前年比7・2%増、針葉樹製材が同21・2%増、今年7月までの累計で針葉樹丸太が前年同期比15・3%増、針葉樹製材が同39・4%増と伸び率はむ

しろ拡大している。中国向けは米国内向けとはグレード、価格が異なるとしても、一定の連動性はある。米国の丸太価格は高値に張り付いたままだが、

加関税が課されてもなおピークに比べれば安いことになる。日本向け主力の米松丸太(15センチ以上)の関税率は5%で、供給量も少ないだけに影響は限

定的と見られる。アラス材材が日本向けに供給されているフェア、スプルス丸太(同)は10%で、中国向けの供給が減れば日本が買いやすくなる可能性はあるが、下材の販売が滞ると伐採そのものが減る恐れもある。米ツガ丸太(同)は米松と同じ5%。仮に米国から中国への供給が滞れば代替産地としてカナダへの引き合いが強まり、カナダの日本向け丸太、製材市況にも影響する恐れがある。

一方、昨年の米国の中国からの針葉樹製材輸入量は1560万BM(3万6816立方尺、

製材市況は6月上旬をピークに下落に転じ、構造材15種加重平均価格は9月第3週が423ドル(1000BM)とピーク比159ドル(27・4%)安。10%の追

からの木材輸入額は前年比6・1%増にとどまるが、日本の杉丸太を使ったフェンス材なども含まれており、10%の追加関税が課されたことで、日本への直接引き合いが増える可能性もある。

米国の中国からの木材輸入額、中国の米国

からの木材輸入額は、いずれも31億ドル前後。年内に解決されれば日本への影響は限定的との見方が多いが、世界の木材需給を左右する二大消費国、産地・加工国の攻防だけに、長期化するれば様々な影響が予想される。